

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 志徳 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問調査

生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

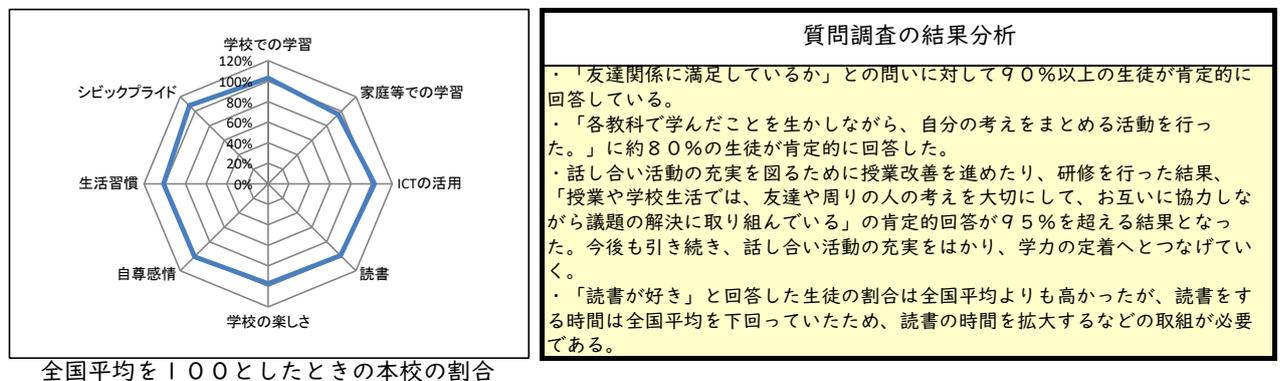
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」や「書くこと」など思考力・判断力・表現力を問う問題の正答率が高いが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」など知識を問う問題に関して課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「書く内容の中心が明確になるように、文章の構成や展開を考える問題」	
	努力が必要な問題	「事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかを問う問題」「読み手の立場に立って、文章を整える問題」	
数学	全体的な傾向や特徴など	全領域において全国平均を上回っているが特に「数と式」の全国平均に比べ、正答率が高い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「素数の意味を理解しているかどうかを問う問題」「事柄を証明する場面において判例を上げることができているかどうかを見る問題」	
	努力が必要な問題	「相対度数の意味を理解しているかどうかを問う問題」「図形に関する照明の問題」	
理科	全体的な傾向や特徴など	「粒子」と「エネルギー」領域の正答率が高いが、「生命」領域の問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「元素を記号で表す問題」「探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかを見る問題」	
	努力が必要な問題	「植物と動物に共通の構造について多面的、総合的にみる問題」「生命を維持する動きに関する知識を問う問題」	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

自分の考えを深めたり、広げたりするような話し合い活動や協同的な学びの活動をより充実させ、話し合い活動の中で各教科の知識の定着や理解の深まりを進めていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭で学習にICTを活用している生徒の割合が低かったため、家庭でのGIGA端末の活用ができるよう整備が必要である。
- ・校区内の小学校と連携し、読書に関する取組を充実させ、校区全体で読書に親しむ生徒の育成を行う。
- ・学年通信、学級通信に家庭学習についての内容を記載し、家庭学習の定着をはかる。